

第7回就職氷河期世代支援の推進に向けた 全国プラットフォーム

1

一般社団法人ひきこもりUX会議
代表理事 林 恭子



ひきこもり支援に求めること

広域連携

ひきこもり当事者や家族には、地元の相談窓口を利用できない人がとても多い。広域での相談、居場所への参加が可能になるように近隣の区市町村で連携してほしい。



「ひきこもりのことを知られてしまう」
「行政の窓口なんて絶対に行けない。かつての同級生がいるかもしれないから」

地域社会での理解促進

2

地域の人たち、支え手となる人たちに向けての研修会や、「ひきこもり理解促進月間(仮)」等を設けるなど地域社会への理解促進を進めてほしい。



「ひきこもりに対する社会の偏見が強く、自分の体験を話しづらい」
「地域の目が、ひきこもり者に対し偏見・好奇や排除する見方でなく、暖かく見守ってくれ受け入れてくれるようになると、かなり生きやすくなると思います」

ひきこもり支援に求めること

交通費の支給

窓口や居場所などにつながりたいと希望しても、遠方にしかなかったりそこに行くまでの交通費がないことがハードルになっている。



「相談に行くにも交通費がかさむ」

「とりあえず交通費が欲しい。それか無職、若しくは貧困層の交通費を軽減してくれるような国による支援が欲しい」

3

非正規でも生きていけるように

働き方や雇用形態は多様化している。非正規で働いていても生きていけるような仕組みが必要。



「短時間働けたことで自信がつき、週に4日の4時間という希望にも応えてもらえた」

「長時間働かなければならない、週5日勤務が絶対という概念がなくなって生きやすくなりました」

ひきこもり支援に求めること

当事者活動への直接支援

1. 経済的困難

ひきこもり関連企画の場合、対象者が経済困窮状態であるため、イベント等の参加費の相場は無料から300円程度。主催者はボランティア的な関わりで生活維持が難しく、モチベーション低下や経済的困窮とともに廃れてしまうことも少なくない。助成金等の申請や獲得もハードルが高く、活動の持続性に困難を感じていることから経済的な支援が必要とされている。

2. 場の確保の難しさ

活動するための会場探し、確保が難しい。団体登録をするためには複数人が必要であったり、居住地である必要があるなど、当事者にはハードルが高い。無料で借りられる場はほとんどなく、当事者活動のための場の提供が必要である。

3. 人材確保の難しさ

経済的に安定しない、活動に踏み出すことの難しさ、サポートのなさ等から人材が不足している。

ひきこもり支援に求めること

当事者活動への直接支援

4. 連携のメリット

当事者団体は当事者へのリーチが、自治体や支援団体は資金確保や場の確保等が強味であり、連携により互いの弱点を補完することが可能になる。より良い支援の構築のために、**当事者団体との連携を進めて欲しい。**

従来の「支援機関や支援者への支援」だけではなく、**直接的に当事者活動を活用・支援することで、支援の質があがり、それにより効果の増大が見込める。**

当事者活動は当事者からの信頼を得やすく、ひきこもり支援施策に有用である。当事者活動への直接支援を。